

2019年1月18日

「リスクセンス フォーラム 2018」

安全工学グループ

NPO リスクセンス研究会

リスクへのセンスを向上させて組織の生産性向上を目指す活動を行っている NPO リスクセンス研究会では、ものづくり分野をはじめとしたオフィス分野、IT 分野、医療分野での活動成果を共有するためと良いリスクセンスを発揮した行動から学ぶためにリスクセンス フォーラムを開催しています。

本年度も安全工学グループ（注1）との共催で、第1部は安全工学グループが目指す産業安全活動の一環として推進している安全体験・体感型教育施設の第3回目となる顕彰、第2部は、第6回目となる Good Risk Sense Award の顕彰、第3部はリスクセンス向上活動に関する報告とその内容に関する参加される皆さんとの意見交換の3部構成です。

多くの方のご参加と忌憚のないご意見、アドバイスを頂ければと思っています。

注1：「幅広い安全活動」に取り組むべく、NPO 安全工学会、財団法人総合安全工学研究所、NPO 保安力向上センター、財団法人災害情報センターおよびNPO リスクセンス研究会の5つの組織で構成し、主な活動として①「安全相談窓口」の設置、②「産業安全から社会安全」への展開（安全教育等）、③社会変化に伴う「新たな安全課題」への対応等を想定して活動している。

記

1 日 時

2019年3月9日（土） 10:30~16:45

2. 会 場

東京大学 弥生講堂 アネックス セイホクギャラリー （定員:60名）

10:00 開場

司会 加藤 豊 (NPO リスクセンス研究会)

10:30~10:35 開会の挨拶

NPO リスクセンス研究会 理事長

東京大学 環境安全研究センター 教授 新井 充

10:35~12:15 第1部 2018年度 GSEF（注2）の顕彰各施設からの研修内容の紹介

進行： 三谷 洋 (NPO リスクセンス研究会)

顕彰する教育研修施設

- ①ANA グループ 安全教育センター 殿
  - ② 宇部興産グループ UBEケミカル教育センター 殿
  - ③三菱ガス化学(株)新潟工場 技術教育研修館 殿
- (あいうえお順)

注2：GSEF 通称 ジーセフは Good Safety Education Facility の頭文字から成る、安全工学グループが普及することを期待する“安全体験・体感”に関する教育・研修を実施している施設の呼称

13:30～14:45 <第2部>2018年度 Good Risk Sense Award の顕彰と記念講演

進行： 鷲 康雄 (NPO リスクセンス研究会)

審査結果講評 梅里 泰正 氏 ((一社) ディレクトフォース)

化学工業日報社賞/リスクセンス研究会賞

顕彰案件

「早期からのリスクマネジメント及びBCPへの取り組みによる3.11での混乱回避及びその後のBCMS構築と実践、安全操業の実現」

顕彰組織 東洋合成工業(株) 殿

休 憩 (5分)

14:50～16:45 <第3部> 研究活動の報告と意見交換

進行： 加藤 豊

①リスクセンス検定®の活用現況

大内 功 (NPO リスクセンス研究会)

②オフィス分野のリスクセンス向上活動

宮崎 敬 (NPO リスクセンス研究会)

③ 横国大・リスク共生社会創造センター「社会リスク評価プラットフォーム構築の取り組み」との連携 ～中規模企業向け簡便なリスクマネジメント手法の開発～

鈴木 雄二 氏 (横浜国大)

NPO リスクセンス研究会 担当者

閉会の挨拶 中田 邦臣

フォーラム終了後、意見交換会を開催します。

(会費は3000円を予定)

<会場のご案内>

東京大学・弥生講堂 アネックス セイホクギャラリー

文京区弥生 1-1-1 東京大学 農学部内

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html>

地下鉄 南北線「東大前」徒歩 1 分、千代田線「根津」8 分

<申込方法>

参加費：無料

申込締切：定員になり次第、締切らせて頂きます。

申込方法：E-Mail でお申込ください。

下記の①～⑥をご記入の上、事務局（[info@risk-sense.net](mailto:info@risk-sense.net)）までお申し込み下さい。

{ご記入いただく内容}

- ① 氏名（ふりがな）（必須）
- ② ご所属機関名
- ③ 部署名
- ④ 連絡先ご住所（必須）
- ⑤ E-Mail アドレス（携帯メールアドレス不可）（必須）
- ⑥ 意見交換会への参加の有無

以 上

## Good Risk Sense Award (GRSA) 顕彰

「いつもと違う？何故だろう？」という感覚が一種のリスクセンスです。リスクセンスの発揮によって事故を未然に防いだという経験はありませんか？

NPO リスクセンス研究会と化学工業日報社では、その様な「リスクセンスの発揮によって事故や不祥事を未然に防止したり、大ごとにならないで食い止めた」という事例を、

【Good Risk Sense Award】として毎年顕彰しています。また、その他に「事故や災害などのリスクの低減や安全意識レベルの向上に貢献できた活動」も顕彰対象としています。

優れたリスクセンスを発揮した組織の活動を称え、他社もその活動を参考にリスクセンスの向上を目指していただきたいという狙いを込めた顕彰制度です。

### 過去の顕彰事例 (Good Risk Sense Award)

年度	顕彰企業	顕彰案件
2013	東日本旅客鉄道(株)	3.11 震災における各職場での津波への対応
同	綜研化学(株)	原料タンク内の品質異常の早期発見とその対応行動
2014	旭硝子(株)	(モノづくり・人づくり推進室) リスクセンス向上に資する研修活動
2015	(株)三ツ矢	リスクマネジメントの構築と実践、3.11 震災時の安全確保行動
同	常磐興産(株)	3.11 震災時のスパリゾートハワイアンズにおける安全確保行動
2016	湖山医療福祉グループ	医療と福祉の連携下でのケア現場に於けるリスク予兆把握活動
同	中小企業家同友会全国協議会	中小企業会員の 3.11 震災からの復興支援および BCP の作成推進
2017	(株)オイルプラントナトリ	BCP の作成、3.11 大地震での的確な実践そして早期事業再開

化学関係の顕彰には、「リスクセンス研究会賞」に加え「化学工業日報社賞」が贈呈されます。

2018年度の【Good Risk Sense Award】への自薦・他薦をお待ちしております。

詳細はリスクセンス研究会ホームページ又は事務局にご連絡ください。

\* リスクセンス研究会 ホームページ <http://risk-sense.net/>

\* 〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町 3-16-8 化学工業日報社内

NPO リスクセンス研究会事務局 E-mail : [info@risk-sense.net](mailto:info@risk-sense.net)

## Good Safety Education Facility(GSEF)顕彰

～「安全体験・体感型教育施設」顕彰～

### ◆ 「GSEF 顕彰」

安全工学グループは毎年、安全工学グループが普及することを期待する「安全体験・体感型教育施設」の顕彰を行っています。

審査方法：グループ内有識者で構成する審査委員会で決定します。

主な審査項目
1. 研修施設への会社の熱意
2. 研修対象者
3. 研修内容の評価の視点
3.1 失敗の現物（事象）から学ぶ手法
3.2 失敗の疑似体験から学ぶ手法
4. 研修施設内の展示
5. 研修プログラム

### ◆ 現在までの顕彰施設

2016 年度

旭硝子(株) AGC モノづくり研修センター

三洋化成工業(株) 安全教育センター

三井化学(株) 技術研修センター

2017 年度

(株)クレハ 技能研修センター

(株)トクヤマ 技術教育訓練センター

東京電力ホールディングス(株) 安全考動センター

凸版印刷(株) 安全道場

(株)ブリヂストン グローバル防災センター

2018 年度の自薦・他薦をお待ちしています

詳細は「NPO リスクセンス研究会」の HP <http://risk-sense.net/>をご覧ください。



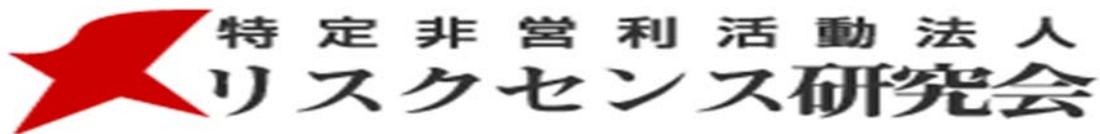
### ◆安全工学グループとは

構成 幅広い安全活動に取り組み活動している 5 グループ

- ① NPO 安全工学会
- ② 財団法人総合安全工学研究所
- ③ 保安力向上センター
- ④ 財団法人災害情報センター
- ⑤ NPO リスクセンス研究会

主な活動 ① 「安全相談窓口」の設置

- ② 「産業安全から社会安全」への展開（安全教育等）
- ③ 社会変化に伴う「新たな安全課題」への対応



## 1. リスクセンス研究会

### ・研究会の目的

組織に潜むリスクの予兆の有無を簡単にセルフチェックする手法、「LCB 式組織の健康診断®」  
(注) の普及を通じて、組織の目的達成に資するリスクマネジメントの向上と組織および個人のリスクに対するセンスの向上に貢献することを目的としています。

注：LCB 研究会（参照次 2.項）が開発した研究成果を普及させるために 2011 年 9 月に設立されました。なお、リスクセンスとは、組織を健全に運営し、リスクを最小にしていくなため  
の必要な知識・判断力・業務遂行力の総称です。

### ・主な活動

組織および組織の構成員のリスクに対するセンスの向上に資する活動

- ① 組織と組織の構成員のリスクセンス度を測定する「LCB 式組織の健康診断®」を活用した「リスクセンス検定®」
- ② リスクセンスの向上に係る研究活動と研究成果の普及  
活動例：リスクセンスの向上に資する 2 つの顕彰  
Good Risk Sense Award (2013 年度より毎年顕彰)  
Good Safety Education Facility (2016 年度より毎年顕彰)
- ③ リスクセンス検定の受検結果に対するフォローアップ研修
- ④ リスクセンスの向上に係る各種セミナーの実施
- ⑤ リスクセンスの向上に係る参考図書の出版

### ・運営の仕組み

特定非営利活動法人 リスクセンス研究会として活動する他、安全工学グループ 6 機関の一員（参照 図-1）としても活動  
運営体制は以下のとおりです。

理事長 新井 充（東京大学環境安全センター 教授、前 安全工学会会長）

理事 産業界、学会から 14 名、産業界から監事 2 名

顧問 田村昌三（東京大学名誉教授）、藤村峯一（元 ㈱ブリヂストン 常務執行役員）

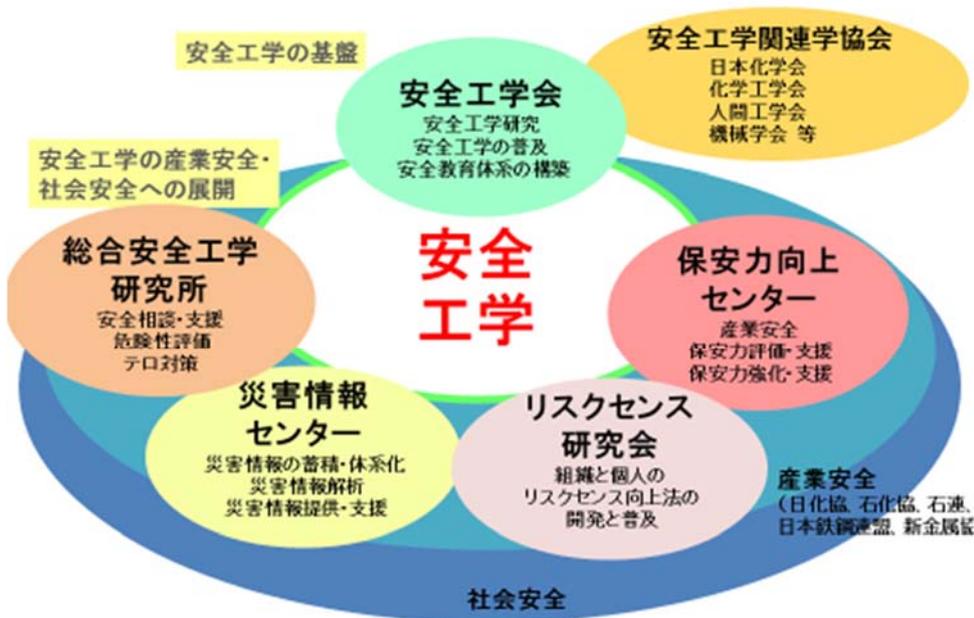
研究機関 : LCB 研究会（参照次 2.項）

### ○事務局

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 3 - 1 6 - 8 株式会社 化学工業日報社内

URL : [risk-sense.net](http://risk-sense.net)

E-mail : [info@risk-sense.net](mailto:info@risk-sense.net)



＜図-1＞安全工学グループのイメージ

## 2. LCB 研究会

### ・ 設立の経緯

企業等の組織における各種事故や不祥事の原因を個人のヒューマンエラーのみに帰着させるべきではなく、組織運営上の問題がヒューマンエラーを誘発するとも考え、その組織運営上の問題点をも究明し対策をとることが重要であると考えた産官学のメンバーが集まり、2007年7月に設立されました。

### ・ 現在までの主な研究成果

#### ① 簡便な組織の診断法である「LCB式組織の健康診断<sup>®</sup>」法の開発

組織を法人と称することから、人が未病の段階にセルフヘルスケアで健康状態を維持していることに倣って、簡易な組織の自己診断法の開発研究を進め、文科省科学研究費補助金（東京大学（2008～2010年度）、東京工業大学（2011～2013年度））の支援を受け、研究を行い、「LCB式組織の健康診断<sup>®</sup>」法を開発しました。ものづくり分野、IT分野、オフィス分野毎にカスタマイズ化し普及段階にあります。医療分野は試行の段階です。

#### ② 現場RSケースメソッド研修<sup>®</sup>の開発

ノンテクニカルおよびテクニカルのスキルとレジリエンス力を同時に習得する研修方法

・ LCB 研究会は、リスクセンス研究会の研究機関ですが、その活動はオープンにして研究活動を続けています。